



さんりんしゃ 三輪車



ニッキー

八千代市立新木戸小学校

《校長室だより》

発行：校長 寺田 好江

令和2年度 第14号

令和2年11月16日

【学校教育目標】 自らの可能性を拓く子供の育成

体験を通して学ぶ(1)

11月9日(月)の昼休み、校庭で遊んでいた児童が集まってきました。校庭に入ってきたトラックの荷台が空いて牛が登場したからです。3年生の社会科の学習で酪農の仕事学びます。千葉県酪農農業協同組合連合会の「モーモースクール」に申し込んで、酪農家の方が牛を連れて来校してくれました。

八千代市の加茂牧場の加茂さんをはじめ、船橋市・鎌ヶ谷市の酪農家の5人の方が体験を通して色々なお話をしてくださいました。生後1か月の子牛と触れ合ったり、自分より大きな牛の搾乳をしたり、貴重な体験になりました。体験を通して、疑問に思ったこと等を質問する3年生の瞳はきらきら輝いていて意欲的に学習していました。

以下、何人かの感想を載せます。



*ぼくは牛を初めて触るのでちょっとこわかったけど、子牛をさわったらふわふわで気持ち良かったです。大きい牛の乳しぼりも3回目に牛乳がでました。少し力が必要で大変だと思いました。

*牛のおなかがおおきくて、お乳まで手を伸ばして乳しぼりをしました。一回目で牛乳が出て嬉しかったです。牧場の人に上手だねと言われて嬉しかったです。

*牧場には100頭くらいの牛がいて、毎日お世話をするのは大変な仕事だと思いました。

*子牛はフワフワしているのに、大人の牛はすべすべしていて変わるんだと思いました。

*牧場にいる牛はみんなメスだと知りました。赤ちゃんを産んだメスしか牛乳が出ないからだそうです。年を取って牛乳がでなくなると、肉になるために送られると聞いて、命の重みを感じました。

*おばあちゃん牛になってお肉になって、私たちが大きくなるために命をいただくことを知りました。私たちは生き物の命をいただいて大きくなるからちゃんと「いただきます。」と感謝して食べようと思いました。